

足利工業大学大学院

学生員

倉持 正行

足利工業大学土木工学科

正會員

中川 三朗

1. はじめに

既成市街地において様々な整備事業が実施されており、都市景観が変化している。その整備事業の結果として、現在の街路や建物等が残っている。本研究では、栃木県足利市の中心市街地における整備事業に着目し、その市街地整備の仕組みが都市景観に及ぼす影響について考察を行うことを目的とする。

2. 調査対象地区

足利市の旧市街地に存在する足利学校や鑊阿寺を中心とした歴史的環境を形成している地区約40haとする(図-1)。この地区は、伝統的文化都市環境保存地区整備事業や歴史的地区環境整備街路事業等が実施されている。



图-1 对象地区

3. 研究方法

足利市の振興計画や対象地区内で実施されている整備事業の計画書および報告書に基づき、総合計画や整備事業、委員会等を経年的に整理し、その成立過程や内容から、振興計画や整備事業、委員会等とのつながりを調べ、その仕組みが都市景観にどのような影響を及ぼしているのか考察を行う。

Keywords: 市街地整備、整備事業、都市景観

〒326-8558 栃木県足利市大前町 326-1

4. 市街地整備の仕組み

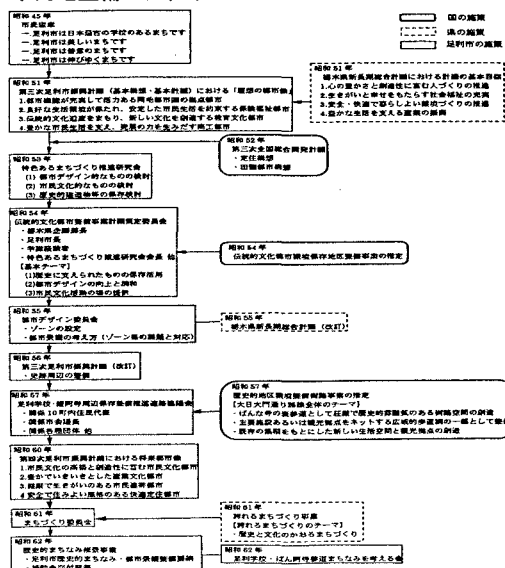


図-2 市街地整備の変遷

足利市の市街地整備の仕組みを市街地整備の変遷(図-2)を基にたどると、足利市は、「市民憲章」を制定し、これに基づき、「第三次足利市振興計画(基本構想)」の中で「理想の都市像」を設定している。

国では、「第三次全国総合開発計画」が策定され、ここでの定住構想や田園都市構想の理念に基づき、足利市は、特色あるまちづくりを推進するためにアンケート調査や先進都市の事例の研究、研究会を開く等して、足利の特色を検討し、「特色あるまちづくり推進研究会」を発足している。この研究会の協議で足利の特色は、市民憲章に表されているとし、「理想の都市像」の実現に向けて3テーマが設定されている。

国や県の施策を考慮するとともに市独自の特色あるまちづくりを検討し、整備の方向づけがされる中で、国土庁より「伝統的文化都市環境保存地区整備事業」の指定を受けている。この事業の計画策定にあたり、「伝統的文化都市整備事業計画策定委員会」が組織され、計画の策定が行われている。計画の基本理念は、市民憲章や特色あるまちづくり推進研究会の活動等に基づき、3つの基本テーマが設定されている。また、大門通りの

ファサードの修景案も策定されている。

一方、特色のあるまちづくりを進めるには、以前から提起されていた都市デザインの問題を協議検討し、その結果を行政に提言し、実現するために「都市デザイン委員会」を組織している。ここでは、13のデザインゾーンを設定し、都市デザインや景観の考え方がゾーン毎に課題と対応として提言されている。

「第三次足利市振興計画(改訂)」では、特色のあるまちづくり活動や整備事業により公空間の整備が進むと、史跡周辺の道路や住宅の整備等が盛り込まれる等の一部改訂がなされ、史跡周辺等の整備を推進することが明確にされた。その後、建設省より「歴史的地区環境整備街路事業」の対象都市に指定を受けている。この事業の計画策定にあたり、「足利学校・饒阿寺周辺保存整備推進連絡協議会」が組織され、足利学校・饒阿寺周辺保存整備の調査研究等や都市デザイン委員会の提言する饒阿寺への参道の石畳化や沿道建物の修景の方策に配慮して、舗装の計画や建物の修景について計画されている。

栃木県の施策である「誇れるまちづくり事業」では、テーマを設定し、足利学校裏門通りの石畳舗装整備等が行われている。

足利学校・饒阿寺周辺の公空間の景観整備が進むとより良い都市景観の創出には、民空間の整備が必要とされ、「歴史的まちなみ修景事業」により、街路整備の完了した路線両側一宅地を対象として建築物の高さや色彩、素材、形態等の修景基準を定めている。建物の修景は、都市デザイン委員会の中のまちなみ修景等の審査チームの助言に基づき行われている。

足利市の市街地整備の仕組みを考えると、理想の都市像の設定や市の特色の検討等に、市民憲章が基本とされ、都市景観の整備には、特色あるまちづくり推進研究会の活動が影響を与えていると考えられる。また、研究会等の活動を実現化するのに適した整備事業が導入され、それを上手く利用することで都市景観を形成していると考えられる。

5. 都市景観への影響

市街地整備の仕組みがモノを残し、都市景観に影響を及ぼした整備事業として、先ず「伝統的文化都市環境保存地区整備事業」では、整備地区の選定の際に、伝統的文化環境ゾーンを設定し、その中から住民意向調査

により整備の要望の高い史跡ゾーンを対象地区と決めている。このゾーンは、後の都市デザイン委員会が設定する史跡ゾーンが含まれている。また、計画の基本理念として策定した3つの基本テーマは、特色あるまちづくり推進研究会が設定したテーマと関連性があると思われる。整備内容は、足利学校跡アプローチ整備として、アスファルト舗装であった足利学校大門通りが御影石舗装に変わり、電柱の撤去等が行われている(写真-1)。また、饒阿寺四周整備により四周のコンクリート板舗装の歩道が鉄平石舗装に変わっている。



写真-1 整備後の足利学校大門通り

次に「歴史的地区環境整備街路事業」では、整備対象地区に都市デザイン委員会の設定した史跡ゾーンが含まれており、歴史的環境に調和を図るために饒阿寺周辺の参道の石畳化や沿道の建物の修景等が景観の創出の方策として挙げられているが、実際の整備内容は、アスファルト舗装であった参道が石畳舗装に変わり、大日大門通りをメインとしてポケットパークの整備、電柱の撤去、街路灯の整備等が行われている(写真-2,3)。

建物等の修景については、別の「歴史的まちなみ修景事業」により、整備が行われている。



写真-2 整備前の大日大門通り 写真-3 整備後の大日大門通り

6. おわりに

足利市では、史跡周辺の街路や沿道の建物等の整備を図るために様々な整備事業が実施されている。その成果(モノ)により都市景観は形成されており、全体的なまとまりがある。これは、整備事業が実施される以前から「市民憲章」を軸として、振興計画や委員会等の活動、整備事業に統一したつながりがあることや整備の成果を振興計画に生かしたり、新たな委員会を組織する等のつながりを持っていることが考えられる。しかし、公空間の整備は先行しているが、民空間の建物等の修景が不十分であると考えられる。